

わがまちのオーケストラ さくらジュニアオーケストラ

栗東の芸術文化の発信拠点であるさきは、平成11年に開館し今年25周年を迎えました。さきを拠点に活動する「さくらジュニアオーケストラ」が、記念の年を祝い、大曲・ブラームスの交響曲第1番に挑みます。



令和5年度定期演奏会

オーケストラを目指す、アカデミー

さくら建設準備段階からの目標「わがまちのオーケストラ」の結成を目指し、世界的指揮者の秋山和慶さんを音楽顧問に迎え、平成17年に「さくらジュニアオーケストラ・アカデミー（以下JOA）」が開校。初めて楽器に触れる子どもたちが楽譜の読み方から学び、オーケストラへの出演を目指します。今年で20年目のシーズンを迎えるさくらJOAでは、小学1年生から高校3年生まで約60人の子どもたちが、音楽をとおして「感じる心」「表現する技術」を育んでいます。



さくらJOA授業



わがまちのオーケストラ、結成!

平成22年に“さくらジュニアオーケストラ”を結成し、11月に第1回定期演奏会を開催。秋山和慶さんの指揮でベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」を演奏しました。以来、毎年定期演奏会を開催し、今年記念すべき第15回を迎えます。さくらJOAではプロの演奏家を多く輩出し、卒業生が講師やエキストラ奏者として関わっています。

さくらジュニアオーケストラ 第15回定期演奏会

日時 12月15日(日) 15:00開演 (14:30開場)
場所 さくら 大ホール

プログラム

レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア第3組曲
モーツァルト：フルートとハープのための協奏曲ハ長調K.299
ブラームス：交響曲第1番ハ短調作品68

入場料

一般1,000円 高校生以下500円
(全席指定、託児サービスあり)

問合せ さくら TEL551-1455

滋賀を音楽で満ちたまちへ!

毎年開催の秋の定期演奏会、3月の成果発表会のほか、さまざまな演奏活動を行っています。

今年2月にはプロバスケットボールチーム・滋賀レイクスターズの試合のハーフタイムで演奏し、4月にはびわ湖ホール「びわ湖の春音楽祭2024」に参加しました。

3月には市内9小学校の校歌をオーケストラで演奏・収録し、各校に配布。

他にもアカデミー講師が市内中学校吹奏楽部へ出張指導を行うなど、さきらを飛び出している活動にも取り組み、オーケストラの魅力伝えていきます。



コンサートミストレス
のざわ ゆの
野澤 宥乃さん

今年はさくらJOAができて20年、15回目になる節目の演奏会です。メインの曲はブラームスの交響曲第1番で、私がコンミスを務めます。ブラームスはこの曲の完成に約20年をかけました。20年の色々な感情が押しよせてくるのでとても感動します。私が大好きなおとりのソロもあります。私たちとブラームスの20年の思いが詰まった演奏で、お客さんに感動してもらいたいとみんな気合いが入っています!ぜひ聴きに来てください!



ヴァイオリン講師
なかむら きみとし
中村 公俊さん

「土曜日、さくらにきませんか?」をキャッチフレーズにヴァイオリンメンバー10人ほどで始まったJOA。今では約60人の大所帯となりました。楽器を初めて触る初心者から受け入れ、楽譜の読み書きや、歌うことを変わらず大切に指導しています。

JOAの子どもたちは、本番にとっても強く、いい演奏をします。音楽をとおして成長するJOAの子どもたちを応援してください。



アカデミー校長
なかたに みつる
中谷 満さん

開館にあたり、「次世代のための独自の事業展開を～」と熱い思いで会議が行われ、ジュニアオーケストラの育成が出来ないかと提案をしました。オーケストラはさまざまな楽器の集合体です。音楽的な協調性はもちろん、社会性を身につける事の出来る、素晴らしいツールです。ジュニアオーケストラを作るにあたり、アカデミーの開講、そしてオーケストラの育成と苦難を乗り越え、今を迎えています。ひとえに多くの人たちのお陰で、20年という節目の年を迎えられたと感謝しています。

第15回定期演奏会に向けて、講師、卒業生、受講生が一丸となってわがまちのオーケストラを盛り上げていきたいです。



音楽顧問・指揮
あきやま かずよし
秋山 和慶さん

音楽が大好きな子どもたちを育てる。そんな非常に稀なポジショニングを担う、アカデミーが設立して20年。

忘れられないのが第1回目の定期演奏会での、ベートヴェンの第3番「英雄(エロイカ)」。練習での心配をよそに小さな子が一生懸命弾いてくれて、本番でビシッと決めてくれたときは舞台袖に戻り、涙が止まりませんでした。

回を重ねて15回、多くの子どもたちが育ち、帰ってきてくれて、一緒に演奏しています。

今回のプログラムは皆で表情を揃えるのがとても難しい曲ばかり。子どもたちが大人になって、「この曲私弾いたことあるよ」と、誇れるようになればいいと思います。